



はやぶさ2 リュウグウの試料確認



探査機「はやぶさ2」が、小惑星リュウグウから試料を持ち帰るミッションに成功した。記者会見した宇宙航空研究開発機構（JAXA）のS主任研究開発員は「数ミリサイズの試料がごろごろ、どっさり入っていて言葉を失うくらいだった。期待をはるかに上回る量を採取できた」と声を弾ませた。Tプロジェクトマネージャーもビデオメッセージで「これでサンプルリターン（試料持ち帰り）ミッションは完遂できたことになる。感無量だ」と語った。

2010年に初代「はやぶさ」が岩石質の小惑星イトカワから持ち帰ったのは微量の微粒子で、直径は大きなものでも数百マイクロメートル（マイクロは100万分の1）程度。約1500粒が確認されたにすぎなかった。リュウグウは有機物や水を含むとみられる小惑星で、採取された試料の量は桁違いに多く、粒子も大きい。科学分析をとりまとめるW名古屋大教授は「色が黒く、有機物も相当含まれていると期待される。いろんな分析が可能になるのでわくわくしている」と話した。

太陽系への起源や生命の材料物質を探る詳細な分析は、来年6月以降に始まる見通し。

欲の金塊 加工し競売

密輸事件で長崎税関が押収した金塊などで作った純金製の延べ棒計約9.33キロ（時価6355万円相当）が、長崎市の同税関で一般競争入札にかけられた。税関としては全国初の試みで、収入は国庫に全額納入される。

財務省によると、2015～19年に全国の税関が摘発した金の密輸は3770件で計13.5トンを押収した。18年の関税法改正で金密輸に関する罰則が強化されたが、20年も34件（押収量計110キロ）の金密輸が摘発されている。取り締まり強化が課題となる中、同税関は「密輸の深刻さを視覚的にアピールしよう」と、密輸の深刻さを視覚的にアピールしよう」と、密輸品を延べ棒に加工した。

情報提供は密輸ダイヤル（0120-461-961）

110番 動画送信可能に

警察庁は、110番の際に映像も受け付ける新システムを2021年度中に全国の警察で導入する方針を決めた。事件や事故の現場の状況を通報者にスマートフォンで動画撮影してもらおう仕組み。リアルタイムで映像を通じて警察も把握することで、的確な初動対応につなげたい狙いがある。

通報を受理する都道府県警の通信指令室が必要に応じて、了解が得られた通報者のスマホにショートメッセージサービス（SMS）でURLを送信する。通報者がURLに接続するとスマホのビデオ通話機能が自動で起動し、撮影した動画がそのまま通信指令室に転送される。音声も通信指令室に聞えるようにする。現場へ駆けつける警察官が持つ警察用スマホにも映像を転送することを検討している。

閣議決定した21年度予算案に新システム整備費として約5960万円を計上した。19年に全国の警察が受理した110番は909万5440件で、うちスマホなどの携帯電話からが74%を占めた。

縄文語る最古の勾玉

鹿児島県西之表市（種子島）の教育委員会は、2013～15年にかけて、東海岸に位置する縄文時代早期の長迫遺跡と二石遺跡を発掘調査した結果、約1万年前の勾玉型をした装身具などの石製品が出土したと発表した。市教委などによると、石製装身具としては国内最古級。これまで見つかった装身具よりも約2千年古く、勾玉型のものは出土例がないという。

市内で開かれた記者会見で、同志社大のM教授（考古学）は「南九州での石製品出土例は全国でも突出して多いが、種子島でこれだけ古い資料がまとまって見つかったことは特異性や技術の系譜を考える上で重要だ」と話した。



本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます